

# 人権通信

令和三年二月二十六日発行  
発行 城ノ内高校人権委員会  
レバライズ

こんにちは、人権委員会です。三寒四温の言葉通り、少しずつ春らしくなってきましたが、生徒の皆さんはいかがお過ごしですか。さて、今回の担当は五一・五二・五三・五四HRです。

最近、インターネットを通してのいじめ、いわゆる「ネットいじめ」が増加しています。

「ネットいじめ」でまず一番に思い浮かぶのは、LINEグループでのいじめです。LINEは個人で送ることができるというのもあり、個人間で仲間外れにすることを計画し、実行することが多いようです。SNSの普及に伴い、このタイプのいじめが多くなっているの、対策を立てる必要があります。また、「ネットいじめ」は匿名で行われ、加害者の顔や名前がわからないことで、歯止めがきかなくなりやすいという問題があります。対策としては、必要な法整備を行ったり、学校でネットリテラシーに関する講演をするなどが考えられます。

また、もう一つの問題点として「情報の拡散」があります。これにより、多くの人が嘘や悪意のある情報を受け取ってしまう恐れがあり、本当に危険です。これをなくしていくためには、やはり一人一人の意識が大切だと思います。この情報を拡散したらどうなるのか、ネットで悪口を広めたら最終的に何が起るのか、そして、それをすることで何かいいことがあるのか、などをしっかり考える力をつける必要があります。そして、被害者の気持ちや自分のこととして受け止めることも大切です。そして、被害者の気持ちやインターネットを使うにあたっては、最低限こういった力が必要だと思えます。

最近、よく耳にする言葉であるLGBT。皆さんはこの言葉の意味を知っていますか。最近ではLGBTQやLGBT+などと呼ばれることもあります。が、簡潔に言うときクシユアルマイノリティの総称のことです。

なぜこの話題を取り上げたのかというと、日本は他の国に比べて同性愛者に対する配慮が少ないかと思つたからです。人が人を好きになるという事は至って普通のことだと思つたからです。世界には同性婚を認めている国が二十八カ国ありますが、先進国であるはずの私たちの国、日本では現在でも認められていません。憲法にも「法の下の平等」がうたわれているのに、一向に改善されない社会に疑問を感じ、今後どうなっていくのだろうと思つたからです。では、どうすればこの状況を変えることができるのでしょうか。背景にはセクシュアルマイノリティに対する社会の差別意識があると思います。友だちなら素直に応援できるけど、家族となると応援しながらも、少し複雑な気持ちになる、そんな人もいるかもしれません。こういった差別意識をなくすために、一人一人がセクシュアルマイノリティについて理解するとともに、多様性が認められる社会を実現するために、みんなと一緒に考えていくことが必要だと思えます。

私が最近気になっているのは、災害時における人権問題です。災害時にける人権は、授業でもあまり取り上げられなかった経験がなく、私もそのことに最近まであまり知りませんでした。ですが、新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、県外ナンバーの自動車に対する差別が話題になってきた。他の人権問題についても調べていたときに見つけ、さらに知りたいたく思つて詳しく調べました。

実際に、東日本大震災の被災者に対する差別の例がありました。それは、実際に被災して東北地方から避難していた子どもたちに対して、被災地に住んでいたからという理由でクラスメイトから避けられていたというものでした。私は初めてこの話を聞いたとき、少し信じられませんでした。それは、被災地に住んでいていたというだけで、なぜ差別されるのか、その意味がわからなかったからです。生まれ育った場所のようには、自分自身で変えることができないことで攻められたり拒否されたりするのは、私だったとしても辛いです。

このようなことは、他にもたくさん起こっているのではないかと思います。南海トラフ地震の危険性が叫ばれている今日、私たちにとっても他人事ではありませぬ。このような差別によって人を傷つけてしまうことがないよう、私自身も考えていきたいと思えます。

インターネットはとても便利ですが、同時に危険なものでもあります。特に危険なのはインターネットを通じた誹謗中傷だと思えます。それが原因で自殺に追い込まれた人さえいます。

「匿名」「相手の顔が見えない」というのは、インターネットの長所だとも言えますが、限度を理解していない人が多すぎるような気がします。私も毎日のようにインターネットを使いますが、心ないことを言う人をたくさん見てきましたし、私自身もスマホ越しに嫌な気持ちになったことがあります。文字だけのコミュニケーションというのはとても難しく、いろいろな読み取り方ができてしまいます。もしかしたら、私も誰かを無意識に傷つけているかもしれないかもしれません。世間では、インターネットを通してのいじめがドラマの題材になったり、インターネットにおける誹謗中傷をした人に関する情報開示が迅速になったりと、社会における問題意識が高まってきているように思えます。

私たちがインターネットをよりよく利用するためには、誹謗中傷する人がいるからといって、他の人に流されて自分も同じようなことをしないようにする必要があります。スマホを通じた向こう側にも同じように普通の人間がいるのだという意識を持つておかなければならないと思えます。

五年生の人権委員の皆さんの意見はどうでしたか？生徒の皆さんも、この機会に人権問題について考えたり、家族と話してみたりしてください。この人権通信を、人権について考えるきっかけにしてもらえるとありがたいです。

